

# 新城設楽

生態系ネットワーク協議会

豊かな自然に恵まれて  
森・生きもの・人が  
ともに調和して生きる

## Shinshiro Shitara

新城市、設楽町、東栄町、豊根村

新城設楽生態系ネットワーク協議会は「樹を活かす、地域を活かす、森のちからと人の営みが調和する奥三河」をテーマに2013年(平成25年)10月に設立。21団体(2021年(令和3年)4月現在)が、豊かな森林資源を生かして活動しています。林業の衰退や人口減少など課題があるなかで、地域活性化に向けて“市民をつなぐ”活動を展開しています。

協議会テーマ

樹を活かす、地域を活かす、  
森のちからと人の営みが  
調和する奥三河



スギ、ヒノキの人工林

森のちからと人の営みの調和を目指して

新城設楽エリアは豊かな森林資源に恵まれています。その約8割がスギやヒノキの人工林であり、林業の低迷により管理の遅れているところもあります。花祭りなどの独自の文化が根付く地域である一方で、特に山間地域で人口減少や少子高齢化が進んでいます。

「さまざまな課題を抱えつつも、豊かな森林資源を生かして地域を活性化したいと考えています。植樹やフォーラムの開催、森林関係等各種イベントへの参加、木の駅プロジェクト※を利用した間伐材活用など活動の幅を広げています」(功刀由紀子会長＝愛知大学名誉教授)。

※森林整備と地域経済の活性化を目的とした事業。山で放りっぱなしになっている木(林地残材)を「木の駅」に出荷し、町が元気になる仕組み。全国で展開されている。



「木育」として行う積み木イベント

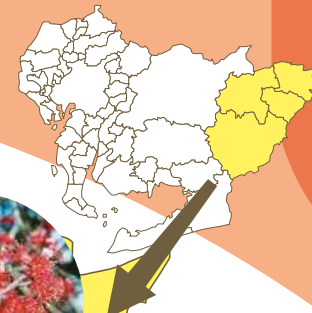
樹に触れて楽しみながら生物多様性を学ぶ

「植樹では、間伐※を行った後の土地に広葉樹を植えています。戦後に国策でスギなどの針葉樹が植えられ、花や木の実を食べられなくなった生きものが畑に現れて獣害※が発生するようになりました。花や木の実のなる広葉樹を植えることで、生きものと共存したい。でも木が育つには長い年月がかかります」(同)。

同協議会が木育として行っている間伐材の積み木のイベントでは、子どもたちは積み木で遊びながら環境の大切さを学んでいます。大人もヒノキなどの香りに癒されるそうです。

※間伐：健全な森にするために、一部の弱った木を引きぬくこと。間伐することで木と木の間に太陽の光を入れたり、下草を増やしたりして動物が住むことができるようになる。

※獣害：イノシシやシカ、クマ、サルなどの野生動物による農作物・樹木などへの被害



地域の生態系

森林、  
コノハズク



フォーラム



花祭り



学生の視点が生きる「自然観察ガイドマップ」

若者や他の協議会とのネットワークも  
広げるために

同協議会はメンバーの高齢化が進みつつあり、いかに若者に参加してもらうかが課題です。「最近の大学生は環境に関する知識を持っているので、ぜひ興味を持ったことに取り組んでほしいですね」(同)。同協議会と愛知大学の学生が作成した奥三河の自然観察ガイドマップ『新城・設楽 自然の世界に出かけよう!』では、学生ならではの視点で奥三河の生きものや自然がいきいきと紹介されています。今後、多くの若者に奥三河の自然を知ってもらうため、このガイドマップ掲載地をネット動画で配信できるように進めています。「そして、他の協議会とも交流し、データベースで県内の情報を共有することも必要ではないでしょうか」(同)。



植樹の様子

【構成団体一覧】21団体

<大学 1>

愛知大学

<企業等 6>

ガステックサービス株式会社(サーラグループ)、株式会社システムハウスR&C、中日本高速道路株式会社、横浜ゴム株式会社、合同会社新城キッコリーズ、株式会社クライム

<NPO等 9>

NPO法人 てはへ、NPO法人 東三河自然観察会、NPO法人 穂の国森林探偵事務所、NPO法人 穂の国森づくりの会、NPO法人 森づくりフォーラム、一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム、奥三河自然保護研究会、あいちエコヤギネットワーク、奥三河の自然と歴史にふれあう会

<行政機関 5>

新城市、設楽町、東栄町、豊根村、愛知県

<おもな活動>

- ・県民参加型の植樹バスツアー
- ・新城設楽生態系ネットワーク形成フォーラム
- ・普及啓発イベントへの出展
- ・間伐材を活用した積み木の貸し出し事業